

令和8年

新年のご挨拶を

あけましておめでとうございます。

昨年は、医療費無償化の対象の高校生世代への拡大や、地域支え合いによる高齢者の移動支援に取り組んだほか、仕事の選択肢の拡大、ひたの魅力発信、旧郡部の振興など、5つの基本施策を着実に進めました。

まちには賑わいが戻り、お祭りは最高の人出で市民やお客様の笑顔があふれていました。個人的には、祇園山鉦の棒鼻に乗ったことが印象深かったです。

今年は、4月に(仮称)こども総合局を発足させ、企業誘致のための土地の開発や、長年の課題だった新清掃センターの整備にも着手します。また新たに、体育館のエアコン整備や、近年増加している短時間強雨への対応として内水氾濫対策も強化します。

これからも日田市に「安心と未来への希望」をつくるため、市民の皆さまと共に全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

日田市長 棕野 美智子

申し上げます

あけましておめでとうございます。

急激な人口減少に伴い、地域コミュニティの衰退や地域経済の縮小、また、災害対応や物価高対策など、市民生活に深刻な影響を与える課題も多くあることから、市議会といたしましても、これらの課題解決に向け、多様化する市民の意見やニーズを集約し、市政へ反映させていくことに努めています。

昨年は、高校生にも参加していただいた「市民懇談会」や各種団体との「意見交換会」、さらには若い世代に議会への関心を持ってもらうための「こども議会体験会」を開催いたしました。

今年も、皆様に寄り添いながら、議会の果たすべき役割と責任をしっかりと認識し、ご期待に応えられるよう、市民誰もが安心して暮らせるまちづくりを議員一丸となって進めてまいります。

日田市議会議長 三苔 誠

令和7年を振り返る 日田市の出来事



ウェブ版



「大阪・関西万博」で日田をPR

4月13日～10月13日に開催された「大阪・関西万博」。日田市は、4・5月に「進撃の日田」、7月に「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」、9月に「観光や食の魅力」と、3回にわたって国際博覧会の場で日田の魅力をPRしました。

2月



住民の支え合いによる高齢者の 移動支援の取組がスタート

週一通いの場や買い物、通院等の移動に困りを抱える高齢者に、移動支援のサービスを提供する取組が山田町(実施主体は「とぎの会」)で始動。また、4月には花月地域まちづくり協議会でも同取組が始まりました。

2月



市と日田市内高等学校等との 包括連携協定 締結式

人材の育成を図り、「若い世代が残れる・戻れる・住みたいと思うまちづくり」を推進するため、日田高等学校、日田三隈高等学校、日田林工高等学校、日田支援学校、昭和学園高等学校、藤蔭高等学校と協定を結びました。

4月



日本遺産認定10周年

咸宜園・豆田町を含む「近世日本の教育遺産群－学ぶ心・礼節の本源－」(日田市・水戸市・足利市・備前市)が、平成27年4月24日に日本遺産の第1号として認定されて10周年。同年中は記念の企画展・講演会・舞踊公演などを実施しました。

8月

令和7年災害の発生

8月10日の大雨によって道路・河川が被災。同日、県西部で線状降水帯が発生し、1時間降水量が観測史上最大の117ミリを観測する記録的な大雨となりました。

10月



災害伝承モニュメントと伝承碑を 天瀬温泉公園に設置

令和2年7月の豪雨で流された「新天瀬橋」の一部を使ったモニュメント「記憶のカケラ～架け橋～」が完成。お披露目にあわせ、天ヶ瀬温泉ライトアップの点灯式や「天夜市」も行われ、天ヶ瀬温泉街に多くの人が訪れました。

9月

三郎丸橋の安全祈願

令和6年7月の豪雨で被災し、全面通行止めとなっている国道386号三郎丸橋。本格的な復旧工事を前に、安全祈願祭が行なわれました。工事の完成は、令和9年3月を予定。

10-11月



日田藝術祭 vol.0

「日田隠－hitakakushi－」

「日田ブループリント会議」主催(市共催)で、美術館の枠を超えてまちなかや自然を舞台とした回遊型アート展示をはじめ、様々なイベントを市内各地で開催。アートを通じて、日田の魅力を再発見する祭典となりました。

10月

子ども医療費無償化 「高校生世代」まで拡充

子どもの保健向上と子育て世帯の経済的負担を軽減するため、医療費無償化の対象を「高校生世代」まで拡充。これによって、未就学児から高校生まで完全無償となりました。

11月



小鹿田焼の若手陶芸家

「日本民藝館賞」受賞

「2025年度 日本民藝館 新作工芸公募展」で、応募総数1,595点のあらゆる分野の工芸品のうち、小鹿田焼の陶芸家・坂本拓磨さんの作品「飴釉打掛二斗五升壺」が最高賞となる「日本民藝館賞」に輝きました。